

自由さを克服し、矯正しながら、やがて社会に巣立つべく努力している光明小・中学校の笑顔の写真展示を行い、又

先の都立光明小・中学校肢体の不自由児が、努力して完成させた作品——額縁、楽焼、テーブルセンター等。

都立青島中学校の、一般に無視されがちな精神薄弱児が僅かな、隠れた能力を生かし、一生懸命に、生み出した作品——手芸、木細工。

都立品川ろう学校に於ける先生の教えも耳で捉える事の出来ぬろう児が、器用に作った作品——衣服、竹細工等。

神戸市立盲学校児が、独自の感覚で物の形を捉えて、楽焼と云う形で表現した作品廿数点。

国立愛光女子学園の、かつては悪路を辿った少女が更生するべく強い意志の下に、精神治療の一助として作成した物を展示し、彼女達の生活の一端を紹介した。

以上作品及び写真を展示する事により、前述の主旨を広く一般に紹介したものである。此等の展示が出来た事は、各関係施設の快い御協力と深い御理解に依るものと、我々一同感謝している次第である。

三、若葉子供会

本学科の学生が、日頃から本学附近の地域社会への奉仕として、又学生の実習として行なっている若葉子供会の一面を、目白祭を通して紹介した。組織及び内容は、別面に於ける「科の動き」の項に述べてある。

(1)全体を通して日数が足りなかった事 (2)日頃の研究不充分 (3)内容が深く掘り下げられなかった事は、科としても亦、学生として

も大いに反省したことであらうと思う。この事実を回避せず冷静に見つめて、更に日頃の努力を重ねて行きたいと思う。

展示の対象を専門家に指かず、一般家庭人とした点は大変によい思いつきであったと思う。

母子福祉センターの研究は大いに好評を得、後日、全国社会福祉事業大会の研究会に発表する機会が得られた事は非常に喜ばしい事であった。

新制一、二、三回生の消息

第一回生は、クラス会を毎年五月の第四日曜に、第二回生は、五月・十月の第二日曜の二回に、又、第三回生は年一回皆が都合のよい時に開いて居る。新制一、二、三回の卒業生は、地方在住者が多く、就職面に於ては、刑務所の教護教官、工場の婦人労働者教育等、科の特色を表わした方向が多い。クラス会にも、それぞれの事情の為、出席はなかなか大変であるが、何時も、約半数は出席者がある。そこでは、その当時の社会問題・新聞紙上のトピックス・各自の近況が主な話題となつて居る。

第一回生……51名卒業中就職 23名 結婚 7名
第二回生……70名卒業中就職 34名 結婚 9名

第三回生……51名卒業中就職 32 名 結婚 4 名

新制二回生伊東よねさんは昨年九月二十三日米国ミッドウエイカレッジに留学された。クリスマス休暇には松本先生の所を訪れ、久しぶりの日本語で話し合われたとのことである。

尙この欄は各回生の消息欄と致したいと思えますから、今後、多くの御投稿を御待ち致しております。



編輯後記

◎科の機関誌が欲しいと云う事は、随分前から、卒業生や学生の間で云われて居りました。「よその大学の社会福祉学科は機関誌を持って居るのに。」とか「卒業して家庭にはいっても、どうにかして勉強して行きたいし、学校の事を知りたい。」というそれぞれの声におかれて、とうとうこの機関誌を作りあげたのです。

◎先ず、誰にでも読んで貰える機関誌を、しかし、研究的な機関誌をと云うのが、この機関誌を作る時の目標でした。

◎社会事業学部。三類時代の大先輩。家庭の主婦で一家をきり廻していらっしゃる方。又、職場でその敏腕をぞんぶんに振っていらっしゃる方。管理科や社会福祉学科の若い、そしてまだ学生気分

のさめて居ない人々。それに学生。皆が此の機関誌を通じ、社会福祉学を通じて「真理と愛」の理想で一体となる事を、夢みて此の機関誌を作りました。

◎創刊ですから、勿論不完全ですし、内容もまだまだです。でも、御自分の物として、育てて行なって下さい。

◎二号への御投稿——論文でも、生活記録でも何でも——を、皆様より、御送り戴きます事を心からお待ちして居ります。

「社会福祉」

第一集

昭和二十九年三月五日印刷
昭和二十九年三月十日発行

編輯人 菅 支那子
発行人

発行所 日本女子大学
社会福祉学科

印刷所 東京都新宿区舟町六
太田 書房

Social Welfare

Journal of Social Welfare Department of Japan Women's University

Contents	No. 1.	1954
----------	--------	------

1. The Current Problems of Children in Japan
Masayoshi Matsushima
2. The Trends and Principles of Psychiatric Movement
Tsunero Imura
3. Children and Religious Education Shina Kan
4. Housewives and Mass Communication Toichi Takatsuki
5. The Study of Motives for Delinquent
Juvenile Workers who have deserted
their own Village (The Conditions of
Juvenile Workers as a Control Group)..... Maeda, Ichibangase,
Tamiya, Yoshizawa,
Hiramatsu.
6. The Workers of Child Institution and Their Influence
Maeda, Yoshizawa
7. Family Frictions in Jōban Coal Mining Districts
Kanaya, Suzuki

Published by Social Welfare Department of Japan Women's
University

社会保障費と国防費

(総予算に対して)

